

2012年の大雨

7, 8月に九州, 近畿などで集中豪雨による災害が発生

1. 概要

平成24年の梅雨入りは、全国的に概ね平年並だったが、九州北部地方と東北北部で早く、沖縄地方では遅かった。梅雨明けは、中国地方と近畿地方で早く、九州南部、九州北部地方、関東甲信地方で遅く、他の地方は平年並だった。

4月の初めには、低気圧が急速に発達しながら日本海を進み広い範囲で暴風となったほか、前線の通過に伴い局地的に非常に激しい雨が降った。7月中旬には梅雨前線が本州付近に停滞して九州北部を中心として記録的な大雨となり、浸水害や土砂災害に見舞われた。この大雨は「平成24年7月九州北部豪雨」と命名された。8月中旬には前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだ影響で、近畿中部を中心に記録的な大雨となった。9月中旬には台風第16号と前線に伴う大雨で、沖縄地方から東海地方にかけての広い範囲で浸水害や土砂災害が発生した。

2. 主な大雨

ここでは、人的被害や社会活動に影響をもたらした大雨について、気象と災害の状況をまとめた。降水量を記載する際の観測地点名は、都道府県名、市町村名及び地点名（地点名が市町村名と同じ場合は省略）とした。被害状況については、主に気象庁が取りまとめた資料によるが、一部、内閣府まとめによる資料も使用した。また、負傷者等の数には風等を原因とするものも含まれる。

(1) 4月3日～4月5日：全国（大雨，暴風）

<低気圧>

4月2日に低気圧が華北から黄海に進み、この低気圧は3日に急速に発達しながら日本海を東北東に進んだ。低気圧の中心気圧は2日21時の1006 hPa から3日21時の964 hPa へと、24時間で42 hPa 降下し、また、この低気圧からのびる寒冷前線が西日本から北日本を通過した。その後、4日に低気圧は北日本を通過してオホーツク海に達した。このため、西日本から北

日本の広い範囲で記録的な暴風となり、海上では大しけとなった。また、前線の通過に伴い局地的に非常に激しい雨が降った。

このため、新潟県などで死者・行方不明者12名となったほか、住家被害、土砂災害、交通障害、電力障害などが発生した。（被害の状況は気象庁調べ）

(2) 5月2日～5月4日：西日本から北日本（大雨）

<低気圧>

5月2日から5日にかけて、低気圧が九州の南部付近から三陸沖へゆっくりと進んだ。全国的に大雨や暴風となったところがあった。

このため、愛知県で死者2名となったほか、住家被害、浸水害、土砂災害、交通障害、電力障害などが発生した。（被害の状況は気象庁調べ）

(3) 5月25日～5月27日：伊豆諸島，小笠原諸島（大雨，暴風）<台風第2号>

5月22日15時にグアム島の北西海上で発生した台風第2号は、徐々に進路を北へ変え、25日03時に硫黄島の南西海上で勢力が最大となった。台風第2号は北東へ進路を変えた後、28日03時に小笠原諸島の東で温帯低気圧に変わった。

(4) 5月29日～5月30日：東日本（大雨）

<上空の寒気>

5月29日から30日にかけて、上空の寒気の影響で、東日本の一部で大雨となった。

このため、住家被害や浸水害、電力障害などが発生した。（被害の状況は気象庁調べ）

(5) 6月4日～6月6日：沖縄・奄美（大雨，暴風）

<台風第3号>

6月2日03時にルソン島の東海上で発生した台風第3号は、北西へ進んだ後転向して北北東へ進み、4日03時に沖縄の南海上で勢力が最大となった。台風第3号はその後も北東へ進み、6日15時に八丈島の東海上

で温帯低気圧に変わった。このため、沖縄・奄美の一部で大雨となった。

(6) 6月8日～7月10日：沖縄・奄美（大雨，暴風，竜巻）＜梅雨前線，台風第4号＞

6月8日から14日にかけて，梅雨前線が九州の南海上に停滞した。沖縄・奄美地方，九州地方，四国地方，伊豆諸島南部を中心に大雨となった。

6月15日から17日にかけて，梅雨前線が九州の南海上に停滞し，この前線上の低気圧が九州の西海上から山陰沖へ進んだ。九州地方，四国地方，近畿地方，東海地方，甲信地方を中心に大雨となった。

6月18日から20日にかけて，梅雨前線が九州に停滞した。また，沖縄の南海上の台風第4号が四国沖へ進んで，19日17時過ぎに和歌山県南部に上陸し，東海地方，関東地方を通過して，20日09時に三陸沖で温帯低気圧へと変わった。このため，沖縄・奄美地方，九州地方，四国地方，中国地方，近畿地方，東海地方，関東地方，東北地方を中心に大雨となった。また，沖縄・奄美地方，四国地方，近畿地方，東海地方，関東地方，伊豆諸島南部，東北地方，北海道で暴風となった。このため，静岡県で死者1名となったほか，住家被害，浸水害，土砂災害，交通障害，電力障害などが発生した。（被害の状況は平成24年8月16日19時00分現在内閣府調べ）

6月21日から22日にかけて，梅雨前線が奄美地方に停滞し，前線上の低気圧が西日本を通過して関東の東海上へ進んだ。沖縄・奄美地方，九州地方，四国地方，近畿地方，東海地方，関東地方を中心に大雨となった。このため，高知県で死者1名となったほか，住家被害，浸水害，土砂災害，交通障害，電力障害が発生した。（被害の状況は気象庁調べ）

6月23日から24日にかけて，梅雨前線が本州南岸に停滞し，前線上の低気圧が九州の西海上から本州南岸へ進んだ。九州地方を中心に大雨となった。

6月25日から28日にかけて，梅雨前線が九州を通過して本州南岸に停滞した。九州地方を中心に大雨となった。

6月29日から7月1日にかけて，梅雨前線上に発生した華北の低気圧が日本海西部へ進んだ。九州地方を中心に大雨となった。

7月2日から4日にかけて，梅雨前線が本州付近に停滞し，九州地方，東海地方，関東地方を中心に大雨となった。

7月5日から7日にかけて，梅雨前線上に発生した黄海の低気圧が関東の東海上へ進んだ。九州地方，中国地方，近畿地方，北陸地方，甲信地方，東北地方を中心に大雨となった。また，5日には青森県で竜巻が発生した。このため，滋賀県と大分県で死者2名となったほか，住家被害，浸水害，土砂災害，交通障害，電力障害などが発生した。（被害の状況は気象庁調べ）

7月8日から10日にかけて，梅雨前線が九州の南海上から関東の東海上に停滞した。奄美地方を中心に大雨となった。

(7) 7月11日～7月14日：九州北部（大雨）

＜梅雨前線＞

7月11日から14日にかけて，本州付近に停滞した梅雨前線に向かって南から非常に湿った空気が流れ込み，九州北部を中心に大雨となった。熊本県阿蘇市阿蘇乙姫（アソオトヒメ）では，11日00時から14日24時までに観測された最大1時間降水量が108.0mm，最大24時間降水量が507.5mmとなり，それぞれ観測史上1位の値を更新した。これらを含め，統計期間が10年以上の観測地点のうち，最大1時間降水量で計7地点，最大24時間降水量で計8地点が観測史上1位の値を更新した。第1図に7月11日から7月14日にかけての総雨量分布を示す。

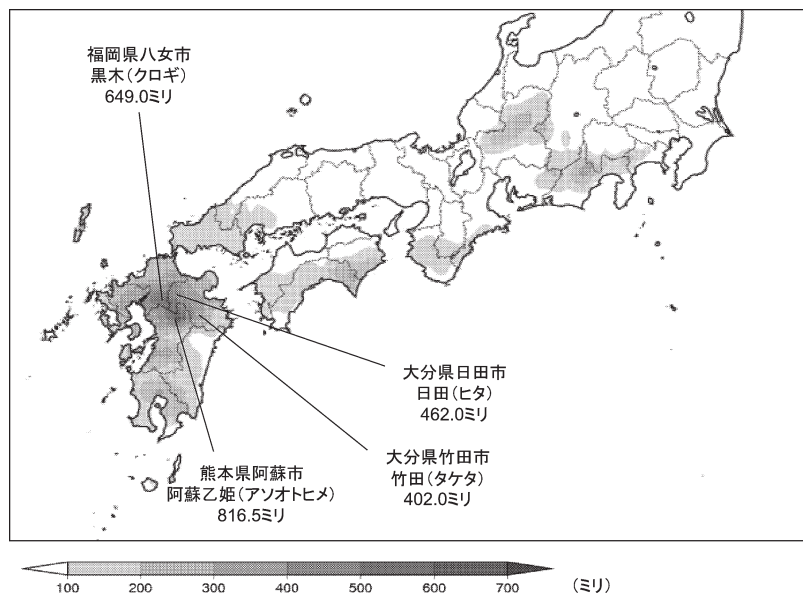
この大雨により，河川のはん濫や土石流が発生し，熊本県，大分県，福岡県で死者30名，行方不明者2名となったほか，九州北部を中心に住家損壊，土砂災害，浸水害等が発生した。また，停電被害，交通障害等が発生した。（被害状況は，平成24年8月16日19時00分現在の内閣府の情報による）

この11日から14日にかけて災害をもたらした大雨について，気象庁は「平成24年7月九州北部豪雨」と命名した。

(8) 7月15日～7月23日：全国（大雨，暴風）

＜梅雨前線＞

7月15日から17日にかけて，梅雨前線が対馬海峡から東北地方に停滞した。沖縄・奄美地方，九州地方，近畿地方，北陸地方，東海地方，東北地方を中心に大雨となった。また，17日には栃木県でダウンバーストが発生した。このため，長野県で死者1名となったほか，住家被害，土砂災害，電力障害が発生した。（被害の状況は気象庁調べ）



第1図 総雨量分布図（期間：7月11日～7月14日）。

7月18日から23日にかけて、日本付近はオホーツク海高気圧と太平洋高気圧に挟まれた気圧の鞍部となり、西から暖かく湿った空気が流入した。九州地方、四国地方、近畿地方、北陸地方の多いところで日雨量が100 mmを超える大雨となった。

(9) 7月29日～8月3日：沖縄・奄美から西日本（大雨，暴風）＜台風第9号，台風第10号＞

7月28日09時にフィリピンの東海上で発生した台風第9号は8月1日15時に沖縄の南海上で勢力が最大となった。台風第9号は台湾付近で反時計回りに円を描くように進んだ後、速度を上げながら北西へ進んで3日09時前に中国の東海岸に上陸し、同日15時に熱帯低気圧へ変わった。

7月28日21時に南鳥島の西海上で発生した台風第10号は南西へ進んだ後西北西へ進み、8月1日15時過ぎ、鹿児島県屋久島付近を通過した。その後北西へ進んだ台風第10号は、2日15時に黄海で勢力が最大となった。台風第10号は、山東半島付近に上陸した後、北北東へ進み、3日21時にボツ海で熱帯低気圧へ変わった。

これらの台風の影響で、交通障害や電力障害などが発生した。（被害の状況は気象庁調べ）

(10) 8月3日～8月8日：沖縄・奄美（大雨，暴風）

＜台風第11号＞

8月3日09時に硫黄島の南海上で発生した台風第11号は、西北西へ進んだ後、東シナ海をゆっくり西へ進み、7日21時に同海上で勢力が最大となった。その後台風第11号は、北西に進み、同日遅くに華中に上陸した後、9日21時に熱帯低気圧へ変わった。

この台風の影響で、土砂災害や交通障害などが発生した。（被害の状況は気象庁調べ）

(11) 8月10日：北日本（大雨，暴風）

＜台風第12号＞

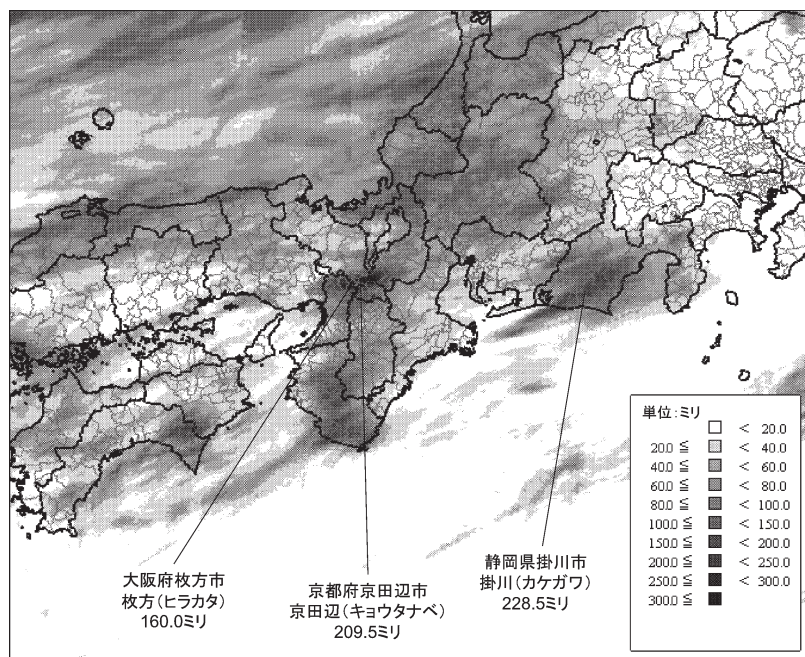
8月6日21時にウェーク島の北西の海上で発生した台風第12号は、北西に進み、ゆっくり発達して、9日15時に日本の東海上で勢力が最大となった。台風第12号は、10日15時に北海道の東海上で温帯低気圧へ変わった。

(12) 8月13日～8月14日：西日本（大雨）

＜停滞前線＞

8月13日から14日にかけて、朝鮮半島から日本海中部へのびる前線がゆっくりと南下し、本州付近に達した。前線に向かって南から暖かく湿った空気が流れ込んだため、大気の状態が非常に不安定となり、近畿中部を中心に大雨となり、局地的に猛烈な雨が降った。

13日00時から14日24時までに観測された最大1時間降水量が、大阪府枚方市枚方（ヒラカタ）では91.0 mm、京都府京田辺市京田辺（キョウタナベ）では78.0 mmとなり、それぞれ観測史上1位の値を更新した。これらを含め、統計期間が10年以上の観測地点のうち、最大1時間降水量で計3地点、最大3時間降水量で計2地点が観測史上1位の値を更新した。また、解析雨量によると、大阪府高槻市で1時間に約110 mmの猛烈な雨を解析し、京都府宇治市では3時



第2図 総雨量分布図（解析雨量による [期間：8月13日～8月14日]）。

間に約190 mmの雨を解析した。第2図に8月13日から8月14日にかけての総雨量分布を示す。

この大雨により、河川の増水や住宅の浸水が発生し、大阪府と京都府で死者2名、京都府で行方不明者1名となったほか、がけ崩れ、交通障害などが発生した。（被害状況は、平成24年8月17日19時30分現在の内閣府の情報による）

(13) 8月24日～8月30日：沖縄・奄美から西日本（大雨，暴風，高波）＜台風第14号，台風第15号＞

8月19日15時にルソン島の東海上で発生した台風第14号は、北に進み、20日21時に同海上で勢力が最大となった。台風第14号は、次第に西に向きを変え、23日09時に先島諸島の南海上で再び勢力が最大となった。台風第14号は、台湾の南部を通過した後、反時計回りに円を描くように進み、28日21時に先島諸島の北海上に達した。台風第14号は、その後、北北東へ進み、朝鮮半島に上陸した後、30日21時に温帯低気圧に変わった。

20日15時にマリアナ諸島の西海上で発生した台風第15号は、西北西に進み、25日21時に南大東島の南海上で、勢力が最大となった。台風第15号は、26日21時頃

に沖縄本島を通過した後、東シナ海と黄海を北北西に進みながら、ゆっくりと勢力を弱め、28日遅くに朝鮮半島北部に上陸した。その後、北東に進み、29日15時に中国東北区で温帯低気圧に変わった。

これらの台風の影響で、神奈川県や和歌山県などで死者・行方不明者が10名となったほか、住家被害や土砂災害、交通障害、電力障害が発生した。（被害の状況は気象庁調べ）

(14) 9月14日～9月19日：沖縄・奄美から東日本（大雨，暴風，竜巻）＜台風第16号，前線＞

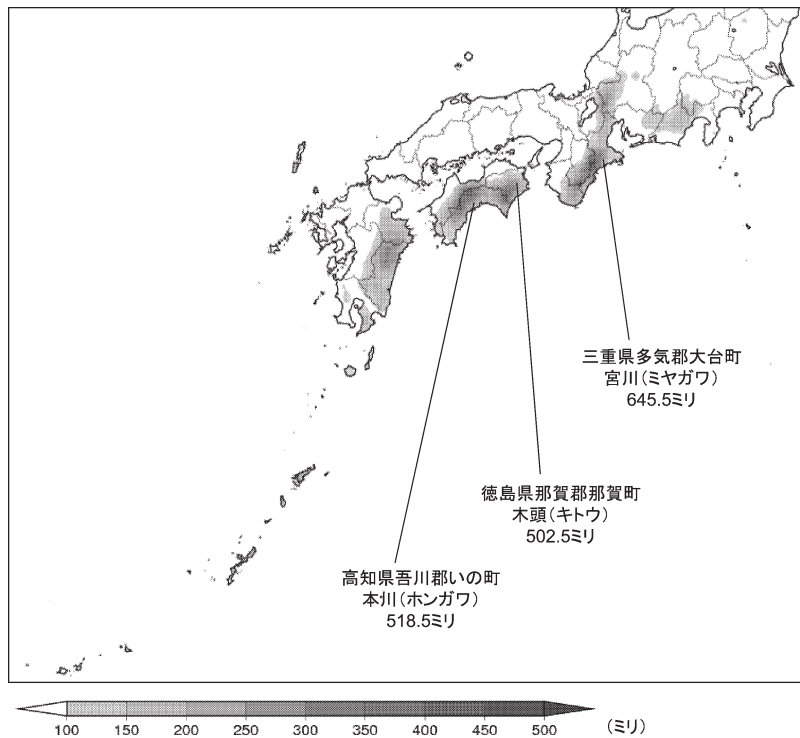
9月11日09時にカロリン諸島近海で発生した台風第16号は、北西へ進みながら、急速に発達し、進路を北へ変えた後、14日03時にフィリピンの東海上で勢力が最大となった。台風第16号はその後も北へ進み、16日07時半頃沖縄本島付近を通過し、さらに北へ進んで東シナ海へ進み、17日に朝鮮半島へ上陸した。台風第16号は朝鮮半島を越えて日本海を進み、18日09時に沿海州で温帯低気圧に変わった。この台風から変わった低気圧に伴う前線が北海道から日本海沿岸にのびた。

このため、南海上から暖かく湿った空気が流れ込んだため、東日本は大気の状態が非常に不安定となり、17日には三重県でF0の竜巻、18日には静岡県でF1の竜巻を観測した。第3図に9月15日から9月19日にかけての総雨量分布を示す。

また、和歌山県や沖縄県で死者・行方不明者2名となったほか、住家被害や土砂災害、交通障害、電力障害が発生した。（被害の状況は気象庁調べ）

(15) 9月28日～10月1日：沖縄・奄美から東日本（大雨，暴風，高波）＜台風第17号，台風第18号＞

9月21日03時にフィリピンの東海上で発生した台風第17号は、25日03時に同海上で勢力が最大となった。



第3図 総雨量分布図(期間: 9月15日～9月19日)。

台風第17号は28日09時に石垣島の南海上で進路を北東へ変え、速度を速めながら進み、30日15時頃に和歌山県潮岬付近を通過し、17時半頃三重県志摩半島付近を通過、そして19時頃に愛知県東部に上陸した。上陸後は、台風第17号は勢力を急速に弱め、10月1日21時に千島列島の東海上で温帯低気圧に変わった。

24日21時に沖ノ鳥島の東海上で発生した台風第18号は進路を北東へ変え、26日15時に父島の南西海上で勢力が最大となった後、北へ進み、28日早くまで八丈島の南東海上にほとんど停滞した。その後、台風第18号は再び北東へ進み、30日09時に北海道の東海上で温帯低気圧に変わった。

これらの台風により、三重県で死者1名となったほか、住家被害や土砂災害、交通障害、電力障害が発生した。(被害の状況は気象庁調べ)

(16) 10月3日～10月4日: 東日本(大雨, 暴風)

<台風第19号>

10月1日15時にマリアナ諸島周辺で発生した台風第19号は、北西に進み、3日09時に硫黄島の近くで勢力が最大となった後、北北東へ進行方向を変えた。その後も、台風第19号は、勢力を保ちながら北東へ進み、4日15時に日本の東海上で温帯低気圧に変わった。

(17) 10月14日～10月18日: 沖縄・奄美と伊豆諸島(大雨, 暴風) <台風第21号>

10月7日21時にフィリピンの東海上で発生した台風第21号は、西へ進み、11日21時に同海上で勢力が最大

となった後、北東に進路を変え、15日に南大東島の南海上に達すると、南西に進路を急に変えた。台風第21号は沖縄の南海上に達すると、16日に北に向きを変え、17日にはさらに北東に向きを変えた。その後、速度を速めて北東へ進み、19日21時に日本の東海上で温帯低気圧に変わった。

この台風の影響により、静岡県で死者1名となったほか、交通障害、電力障害が発生した。(被害の状況は気象庁調べ)

(18) 10月15日～10月17日: 伊豆諸島(大雨, 暴風) <台風第22号>

10月14日15時に北マリアナ諸島の西海上で発生した台風第22号は、北西へ進み、15日09時に同海上で勢力が最大となった。台風第22号は、その後北へ進み、さらに東北東へ進路を変えた後、19日09時に日本のはるか東海上で熱帯低気圧に変わった。